

第8回「中国地方の防災に関する連絡会」を開催

—平成30年7月豪雨の対応・課題を共有、連携訓練及びリスクの見える化を推進—

◆連絡会の目的

広域かつ大規模な災害時に中国地方を管轄する防災関係機関が連携し、災害対策を効果的に実施できるよう、平常時から情報共有、施策の連携・調整を行い、国民の生命、身体及び財産の保護に資することを目的とし、平成24年3月7日に設立。

◆第8回連絡会の概要

日時：平成31年1月22日(火) 14時～16時

場所：広島県立総合体育館 大会議室（広島県広島市中区基町4-1）

出席者：43機関48部局70名の防災担当責任者が出席

- 〈国の機関〉 中国管区警察局、中国総合通信局、中国四国厚生局、中国四国農政局、中国経済産業局、中国四国産業保安監督部、中国地方整備局、中国運輸局、大阪航空局、中国地方測量部、広島地方気象台、福岡管区気象台、第六管区海上保安本部、第八管区海上保安本部、自衛隊広島地方協力本部、陸上自衛隊第十三旅団、海上自衛隊呉地方総監部
- 〈地方自治体〉 島根県(危機管理局・土木部)、岡山県(知事直轄、土木部)、広島県(土木建築局)、山口県(総務部、土木建築部)、岡山市(危機管理室、下水道河川局)、広島市(危機管理室、道路交通局)
- 〈公共機関〉 西日本高速道路(株)、本州四国連絡高速道路(株)、中国電力(株)、電源開発(株)、西日本電信電話(株)、(株)NTTドコモ、KDDI(株)、ソフトバンク(株)、西日本旅客鉄道(株)、日本貨物鉄道(株)、中国地方鉄道協会、中国バス協会、中国ハイヤー・タクシー連合会、中国トラック協会、(一社)中国旅客船協会、中国地方海運組合連合会、中国地方港運協会、中国地方倉庫協会連合会、(一社)日本ガス協会中国・四国部会、中国地区LPガス協会連合会

＜第8回連絡会の論点＞

- リスクの見える化の整理状況と活用方策
- リエゾン活動に着目した連携訓練計画
- 平成30年7月豪雨の対応および課題報告
- 中国地方の防災に関する連絡会の今後の進め方

＜議事内容＞

➤平成30年度の取組報告

- 「南海トラフ巨大地震対策計画専門部会」では、大規模災害時のリスクの見える化として緊急輸送道路上の橋梁の耐震対策、堤防の整備状況を整理、活用方法を意見交換。
- 「連携訓練専門部会」では、平成31年度連携訓練の実施に向けて平成30年7月豪雨の振り返りを実施のうえ、リエゾン活動に着目した訓練の実施方針を検討。
- 「緊急輸送専門部会」では、平成30年7月豪雨における旅客・物資の緊急輸送に係る対応状況および課題を報告。

➤平成30年7月豪雨災害への対応

- 災害対応記録誌の紹介と課題(中国地方整備局)、観光振興に向けた支援について(中国運輸局)、空中写真等地理空間情報の提供(中国地方測量部)、JETT(気象庁防災対応支援チーム)の創設・派遣(広島地方気象台)、主な被災地支援について(中国総合通信局)

➤中国地方の防災に関する連絡会の今後の進め方

- 来年度以降各専門部会の検討テーマに関する実施方針を提示、平成30年7月豪雨に対する今後の取組として課題検討の専門部会設置を提案



開会の挨拶（中国地方整備局長）

「平成30年も非常に多くの災害が発生し、7月豪雨では中国地域も甚大な被害が発生した。災害が頻発化・激甚化しているなか、より一層の連携が必要。」

意見交換の様子



「平成30年7月豪雨では、情報収集・共有がなかなか軌道にのらず、立ち上がりの難しさを感じた。」



閉会の挨拶（中国運輸局長）

「平成30年7月豪雨における対応・課題報告に最も時間を割いた。今後、各機関において検証と課題解決を図られると思う。それらを共有し、更に連携を強め次に繋げたい。」



「平成30年7月豪雨では、現場対応の経験者をリエゾンとして派遣したので各町に貢献できたのではないかと思います。」

➤中国地方の防災に関する連絡会の今後の進め方

- 引き続きリスクの見える化を進めるとともに、リエゾン活動に着目した連携訓練および津波警報発令中の初動に着目した連携訓練を実施する。また、「平成30年7月豪雨における課題検討専門部会(仮称)」を設置し、地域毎にWGを実施して課題解決を図る方針を申し合わせた。

